

世界の外貨準備に占める 人民元のシェアは **2.7%** (2021年9月末)

国際経済研究所主席研究員

伊藤信悟

二〇二二年二月のロシアのウクライナ侵攻により、G7などがロシアに対する経済制裁を大幅に強化した。なかでも影響が大きいとみられているのが、ロシア中央銀行の保有する外貨準備の凍結、国際資金決済のためのデータ通信を支える「国際銀行間通信協会（SWIFT）」からの口

シアの一部銀行の締め出しである。それがロシア経済に与える影響はもとより、国際通貨としての各国通貨の位置づけに与える影響が注目されている。

一八年四月、米国財務省が米大統領選への介入やウクライナ情勢を理由にロシアの政治指導者、寡占資本家・同関係企業などに資産凍結・取引禁止措置を打ち出したことを契機に、ロシアは外貨準備の構成を大きく変え、米ドルの割合を大幅に落とす一方、金、ユーロ、人民元の割合を大きく引き上げた（二二年六月末現在、米ドルは一六・四%、金は二二・七%、ユーロは三三・三%、人民元は二三・一%）。また、今般のG7などの制裁を受けて、ロシアは制裁を受けていない中国の人民元の保有割合を一段と増やすのではないかと目されている（なお、二二年末現在、ロシアの外貨準備高は世界第七位の四六八一億ドル）。

人民元は国際通貨となるのか

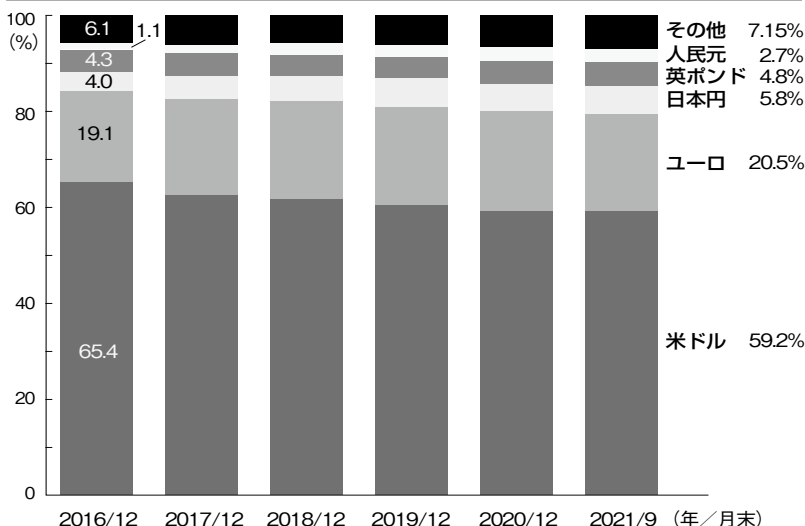
世界の外貨準備に占める人民元の割合は確かに高まりつつある。国際通貨基金（IMF）によると、人民元の割合は二〇一六年十二月末の一・一%から二一年九月末には過去最高の二・七%となっている（図参照）。しかし、米ドルの五九・二%、ユーロの二〇・五%には遠く及ばず、日本円

の五・八％、英ポンド四・八％に次ぐ第五位にとどまっているのが現状である。

外国為替市場における人民元の取引高シェアも、一三年四月の二％から一九年四月には四％に増えているが、米ドルの八八％、ユーロの三二％、日本円の一七％、英ポンドの一三％には及ばない（全通貨合計で二〇〇％、国際決済銀行〔BIS〕統計）。SWIFTの決済通貨に占める人民元のシェアも二二年一月に過去最高の三二・二％を記録したが、米ドルの三九・九％、ユーロの三六・六％と比べると、差は大きい。

今後、欧米諸国との関係が悪化している国などが外貨準備としての人民元保有や人民元建て取引の増加、中国が設立した国際銀行間決済システムCIPS（Cross-Border Interbank Payment System）の積極的利用を図る（図20）と、人民元の国際化が後押しされる可能性はある。ただし、人民元が米ドルやユーロなどに比肩する国際通貨になるには、中国経済の持続的成長に加え、資本取引のさらなる自由化、金利・為替の自由化推進、人民元建て商品取引市場の拡充、中央銀行の独立性や法の支配の確立に向けたガバナンスの整備など多面的な取り組みが必要である。人民元の国際化は今後も漸進的なものとなるだろう。●

図 世界の外貨準備高に占める主要通貨別シェアの変化



（注）外貨準備の通貨種構成を IMF に報告している国・地域の外貨準備高合計を 100%とした場合の割合。
（出所）IMF, Currency Composition of Official Foreign Exchange Reserves より作成。